

ラオスの こども通信

74号
2019年5月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 図書館がずっと利用できるように ▶ p1
- はじめる・つながる・つくりだす ▶ p2
- 「ラオスのこども」の仲間たち ▶ p4
- メコンのほとり「花」 ▶ p4



*写真の説明は p4をご覧ください。

図書館がずっと利用できるように

学校図書室のネットワークをつくらう

2019年3月1日、「ラオスのこども」は、生徒数1,000人規模のヴィエンチャン県の2郡の中学校3校で図書館を建設し、円滑な運営のための研修などを行っていく新たなプロジェクトを開始しました。



これは3か年の計画で、設置した図書館をモデルにし、周辺校の図書室の開設を進め、県内の学校図書室のネットワークをつくっていきます。また地域でのイベントなどを通して、読書がより多くの学校や地域社会で定着・普及していくことをめざします。

ドロップアウトを減らし、修了率を上げる

今回の事業地の一つであるヒンフープ郡は、首都から車で3時間ほどのところにあつて、県内で少数民族の割合が高く、母語をラオ語(ラオス語)としない人々が多く暮らしています。そうしたことから、中学1年生のドロップアウト率は全国平均8.1%に対し、郡平均は13.1%と高くなっています。また、4年生までの前期中等課程(日本の中学校に相当)を修了する割合は、全国平均が71.8%なのに対して、34.8%と大きく下回っています。

ドロップアウトを減らし、卒業までしっかり学び、修了率を上げていくためには「本に親しむ」ことが大きな力となる。その認識を、当会は教育スポーツ局と共有していきました。同局によれば、現在の学校図書室の普及状況は県内の小中学校510校のうち図書室が整備されているのは193校のみで、未だ半数に達してい

ません。

そこで、県の中心部に位置し、県の行政機関があるボンホーン郡とドロップアウト率の高いヒンフープ郡で学校図書室を新設し、それぞれ定着するように研修を行うとともに、県内の学校図書室のネットワークを構築していく戦略を立てました。

共有・持続・発展に向けて

当会は、これまで小中学校などの空き教室を活用して学校図書室を開き、先生たちや郡教育局の指導官(ニテート)に研修を行い、さらに地域文庫の開設・運営の支援をし、ノウハウを蓄積してきました。

国際協力の課題のひとつは、その取り組みのねらいが共有され、根づいていき、プロジェクト終了後も持続・発展していくことです。36年にわたり経験を積み重ねてきた私たちも例外ではなく、この課題を前に、もがき続けています。今回は、教育行政の推進に責任を負う郡教育スポーツ局、地域の人々から構成される村教育開発委員会と当会、それぞれの役割を明記した協定書を交換することにしました。地域で一体となって継続して取り組むための仕組みづくりです。



事業説明会で協定書を一文ずつ読み上げる当会スタッフ

初めの一步

3月29日、県、郡、村、学校、そして当会が参加して事業説明会を行いました。事業の全体像を共有し、学校の図書館は読書をしたり本を借りたりするだけの場所ではなく、子どもたちの成長がより豊かなものになり、地域とつながる場となることを確認しました。そこで、活動につながるみんなで協定書を作っていくところから取りかかりました。一文一文読み上げ、加筆や修正をしながら関係者が当事者として理解・納得できるものとし、5月に調印することで合意しました。学校で図書館の建設場所も確認し、いよいよ建設が始まりました。

なお、このプロジェクトは外務省の日本NGO連携無償資金協力「ビエンチャン県における中学校の図書館整備を通じた読書推進事業」(事業名は「ビエンチャン」と表記)として日本のODA(政府開発援助)予算のもとに「ラオスのこども」が企画・調整・実施するものです。

事業実施に必要なラオス政府との覚書(MoU)の取り交わしが様々な手続きの滞りから遅れていましたが、ようやく締結出来ることとなり、プロジェクト開始に至りました。

地域行政・学校と一体となって取り組む私たちの新たなチャレンジに、どうぞご注目ください。



関係者が集まり、校庭の建設予定地を確定。

<新駐在員自己紹介>

はじめまして、渡邊淳子(わたなべ じゅんこ)です。4月25日から「ラオスのこども」の現地事務所駐在員として赴任しました。外務省NGO連携のプロジェクトを中心に従事します。

2015-2016年にラオス青年海外協力隊として活動して以来のヴィエンチャンは、例年にない暑さです。着任早々、隣県のポリカムサイでのおりがみワークショップやアタプー県でダム水害の被害があった地域への図書室支援の視察など忙しい毎日を送っています。

一緒に働くラオス事務所のスタッフはみんな、子どもが大好きで、自分たちの活動にやりがいを持ち、とっても仕事熱心です。そんな素敵な仲間たちとともに、ラオスの子どもたちの未来を創るお手伝いが出来たらと思っています。



ラオス事務所長のスラピー(左)とともに。

は

コーヒー豆で、絵本・紙芝居を支援



すかいらーくグループは店舗で提供するブレンド・コーヒーにラオス産のコーヒー豆も使用しています。その購入額の一部を2011年から「ラオスのこども」への寄付していただき、これまでに絵本8作品、合計22,500冊をラオスで出版し、各地の小中学校や図書館に届けてきました。どれも人気の絵本で、子どもたちを楽しまれています。

2018年11月、(株)すかいらーくホールディングス、東京アライドコーヒーロースターズの4人の皆さんがヴィエンチャン都バクグム郡ノンブアトン小学校を訪問し、図書の贈呈を行いました。この学校では、これまで別校舎の小さな部屋に本棚を設置して図書室を開いていました。最近、新しく広い部屋に移し、棚を大きくしましたが、そこに置く本が足りなかったのです。そこで当会に本を増やす相談が持ちかけられ、応えることができました。

一行が到着すると、子どもたちが校庭に椅子を並べて待ち構えていました。贈呈式では図書162冊とともにサッカーボールと折り紙もプレゼントされました。当会スタッフによる紙芝居『青虫くん葉っぱをさがして』の実演、絵本『おおきなかぶ』の読み聞かせなども行われました。『おおきなかぶ』では、ラオスの子どもたちと日本の大人たちが一緒になって「かぶ」をひっぱりました。

子どもたちに、将来何になりたいか問いかけたところ、「医者」「軍人」「お金持ち」など元気な声が返ってきました。たくさんの本を読んで、もっともっとたくさんの夢を膨らませて欲しいと願っています。

<募金の報告とお礼>

夏募金2018

2018年7月～9月末、ラオスのこども夏募金「ペポイさんの頑張りを支えたい」を実施しました。70人の方々から合計649,350円の募金が集まりました。「学校図書室の地域への展開事業(2014～)」で開設・運営支援した8か所の地域文庫(村の文庫)に160冊ずつ計約1,300冊を届けます。

緊急募金～第一弾・第二弾～

2018年7月23日にラオス南部、アタプー県サナムサイ郡で発生した水力発電所のダム崩壊による浸水被害に対して、2回にわたって緊急募金を行いました。

第一弾は、アタプー県教育局と協力して学用品の提供を中心にした子どもたちへの支援を決定し、おかげさまで50人の方々から

学校図書室を開く

2019年1月から3月にかけて、企業、学校、団体の支援の下に、3県の小学校、中等学校合計5校で学校図書室を開設することができ、合計1,705人の子どもたちが利用できるようになりました。

図書室を開設したバーンサーン小学校は、隣接する中等学校には図書室がないことから、両校で一緒に利用することにし、毎日たくさんの中小学生が図書室に来ています。このように、より多くの子どもたちが本に親しめるよう努めています。

- ・ボリカムサイ県カムクード郡 ポムピック小学校 (HA313) / 昭和薬科大学附属高校中学校
- ・カムワン県セイバンファイ郡 バーンサーン小学校 (HA314) / 沖電気工業(株)OKI愛の募金
- ・カムワン県タケーク郡ドーンタイ小学校 (HA315) / 沖電気工業(株)OKI愛の募金
- ・カムワン県セイバンファイ郡ガーンカム中等学校 (HA316) / 福岡那の香ライオンズクラブ
- ・ヴィエンチャン都ナーサイトーン郡ナーカー中等学校 (HA317) / 愛知県立常滑高等学校



子どもたちと本を使ってスーン(詩の詠唱)をします。太鼓のリズムに合わせて、みんなで声を合わせて歌うように詩を読みます。子どもたちは楽しみながら、言葉を覚えることができます。HA315

日本の絵本にラオス語のシートを貼り付けて届ける



(株)ニコンは、CSR(企業の社会的責任)推進活動の一環として、2018年3月から「ラオス語絵本づくり」のイベントを開催しています。ニコンはラオスに工場(Nikon Lao)があることもあり、ラオスを知る機会とするとともに、社員のみなさんが手を動かして社会課題解決に貢献できるボランティア活動を行うことをねらいとしてイベントを続けています。

ラオスの教育事情や「ラオスのこども」の図書活動についてスタッフからの説明に社員の皆さんは真剣に耳を傾けています。日本でのロングセラーの絵本、『ぐりとぐら』はラオスでもやっぱり大人気というスタッフからの報告に、自身の子ども時代を重ねる方も。このイベントはこれまでに4回実施され、リピーターも多く、のべ72人が参加しています。就業時間後に社内の様々な部門の方々が集い、新たな交流の機会としても一役買っているようです。絵本にラオス語翻訳シートを貼り付ける作業では、自身で道具を用意する方もいます。これまでに合計85冊の絵本がラオスの学校の図書室に届き、子どもたちが楽しく読んでいます。

当会は、このように日本語の絵本に当会で用意したラオス語翻訳シートを貼ってラオスに送る、「ラオス語絵本プロジェクト」への参加を幅広く呼びかけています。個人やグループで参加する方や、講演とセットにして学校や企業で実施することも可能です。日本で身近にできる国際協力に、ぜひご参加ください。お問い合わせをお待ちしています。

646,153円の募金が集まりました。11月にはラオス事務所のスタッフ2人が現地を訪問し、合計1,600冊の教科書や絵本を4地域で配布することができました。

第二弾は教科書・本の配布とともに被災地域に学校図書室を整備するための募金を行い、101人の方々から831,747円が集まりました。2019年9月の新学年に図書室をオープンすべく、5月初旬に代表のチャンタソンとラオス事務所のスラピー、渡邊が、

サナムサイ郡の小中学校を視察し、被災後の学校の状況や、図書室の設置環境について、郡教育局、学校の先生や生徒から聞き取りをし、支援内容を検討中です。

また、FacebookやInstagramなどのSNSで、「いいね!」や「シェア」を通じた応援もいただきました。

子どもたちが困難な中であっても成長できるよう、ご協力いただいた募金を大切に使用させていただきます。



浸水によって崩れた家屋



仮設テントで勉強する子どもたち



教科書や本などを届けました

「ラオスのこども」の仲間たち

「知ってしまったら、知る前に戻れない」という思いで

伊藤珠希 (いとうたまき) / 東京事務所スタッフ

2018年10月にスタッフになった伊藤さん。資金調達と広報、ボランティア・インターン対応などを担当しています。

学生時代はストリート・チルドレンの問題に関心があって、カンボジアなどに行っていました。2015年からは青年海外協力隊で、ラオスの不発弾処理の政府機関で情報システムの活用を指導しました。国際協力は相手にちゃんと残って(身につけて)こそと考え、IT系企業での仕事の経験を活そうと、選んだとのこと。

ところが壁にぶつかったといいます。操作手順など質問を受けるのですが、ほとんどはマニュアルに書かれていることでした。読めばわかることですが、日頃、読んだり書いたりする機会がない人が多いのです。強く感じたことは、子どものころからそうした習慣を身につけることこそが大事ということ。教育支援に関心を持つようになったきっかけでした。

ピーマイパーティをはじめ、今までラオスにも当会にも縁のなかった方とのつながりが始まっていくことが面白く、うれしいとのこと。学生時代に読んだジャーナリズムの本にあった「知ってしまったら、知る前に戻れない」という言葉が、ずっと頭の中に残っていて、絵本と子どもたちのこと、現場のことをもっと知って、みなさんに伝えていきたいと思いを語ります。よろしく願いいたします。(聞き手 森透 / 理事)



腰機織りをしています

表紙の写真

ヴィエンチャン事務所併設の図書館に来ている常連の中学生たち。一部の男子たちの間では恐竜がブームのよう。図書室に来たら直ぐに恐竜の本を手に取り、グループで本を囲んで見ている。なかには「恐竜博士」がいて、誰かが恐竜の名前を言うと、すらすらとその特徴を説明し始めます。逆に、特徴をいくつか言って、その恐竜の名前を当てるクイズをしたりすることもあります。この本はタイ語の本なので、ラオスの書店では手に入りません。子どもたちは、この図書館でしか読めない本を目当てに、今日も昼休みにやって来ます。

特定非営利活動法人ラオスのこども

組織の理念「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくります。

ラオスのこども通信 74号

2019年5月発行 編集人: 森透
発行: Action with Lao Children / DeknoyLao
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303
TEL/FAX 03-3755-1603
e-mail: alctk@deknoylao.net
http://deknoylao.net
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分
郵便振替 00140-6-462494

<通常総会実施報告>

2018年9月15日、2018年度通常総会を、活動会員33人(書面評決、委任状を含む)、活動協力者7人、計40人が参加して、ライフコミュニティ西馬込で開催しました。年に一度、会に関わってくださる方々が集まる貴重な機会です。近年取り組んできた「地域文庫」の活動や、ラオス政府との活動覚書の締結に関する事など、活発な意見が交わされました。

メコンのほitori花

ラオスを彩る

4,5月のこの季節、ラオスは花ざかり。

まずはおなじみドークチャンパー(英名ブルメリア)。ラオスの国花になっています。花びらが白く中心がほんのりと黄色いものが、よく知られていますが、写真のような濃いピンク色のものもあります。

黄色い花が鈴なりに咲くドーククーンは、4月中旬のピーマイ(ラオス正月)に使われます。お寺にお参りするときに、このドーククーンの花びらが入ったお水を仏像にかけるのです。ヴィエンチャンのラオスのこども事務所の庭には、大きなドーククーンの木があります。

燃えるような真っ赤な花が印象的なドークファンデーンも、この時期鮮やかに色づきます(デーンはラオス語で赤)。写真は、先日首都ヴィエンチャンの隣県ポリカムサイで「おりがみワークショップ」をしたときに、会場のこどもセンターに咲いていたもの。ポリカムサイに行く道すがらにも、ドークファンデーンの木がいくつもありました。(渡邊淳子 / ラオス事務所)



ピンクのドークチャンパー



仏像を清めるドーククーンの花びらの入った水



ドークファンデーン